

わたしたちの人権 67

■公正採用選考

【公正採用の重要性】

職業選択の自由・就職の機会均等は生活の安定や社会参加など、人が幸せに生きていくための基本的権利に関わるものです。すべての国民に、この権利が保障されなければなりません。

職業選択の自由・就職の機会均等の確保を図るためには、まず雇用主の企業が、同和問題をはじめとするさまざまな人権問題に対して正しい認識を持ち、差別のない公正な採用選考を行うことが必要です。

【応募者に広く門戸を開く】

☆「公正な採用選考」を行うには、応募者に広く門戸を開くことが求められます。

☆ごく限られた人にしか門戸が開かれていないようであれば、「就職の機会均等」を実現することはできません。求人条件（性別・年齢等も含む）に合致するすべての人が、応募できるようにすることが大切です。

【適性・能力のみを採用基準とする】

☆「公正な採用選考」を行うには、「応募者が求人職

種の職務遂行に必要な適性・能力を持つているかどうか」という基準で採用選考を行うことが必要です。

☆例えば、本籍地や家族の職業など「本人に責任のない事項」や、宗教や支持政党など「本来自由であるべき事項（思想信条にかかわること）」は、本人が職務を遂行できかどうかには関係のないこと・適性と能力には関係のないことであり、これらを採用基準としないことが必要です。

☆適性・能力に関係のない事項は、それを採用基準としないつもりでも、応募用紙に記載させたり面接時において尋ねたりすれば、採否決定に影響を与えることとなり、就職差別につながるおそれがあります。☆応募者にとってみれば、採用側が採用基準としないつもりでも、尋ねられれば、採用選考の基準にされると解釈してしまいます。

また、それらの事項を尋ねられたくない応募者にとつてみれば、精神的な圧迫や苦痛、心理的打撃を受ける影響で、面接時に実力を発揮できない場合があります。結果として、当人を排除することになりかねません。

☆なお、求職者の個人情報保護の観点からも、社会的差別の原因となるおそれのある個人情報については、原則として収集が認められません。

【適正な応募用紙】

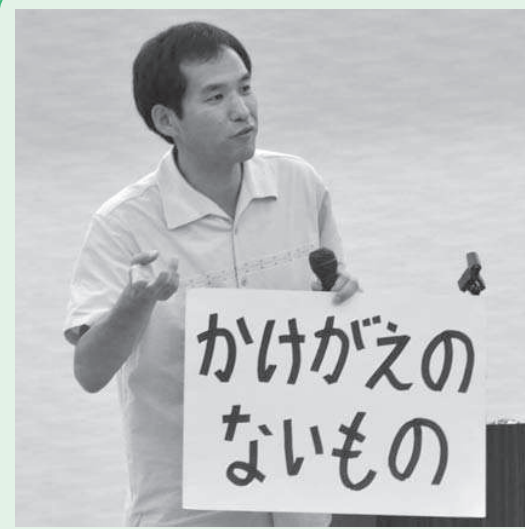
応募用紙について、新規中学校卒業予定者には「職業相談票乙」を、新規高等学校卒業予定者には「全国高等学校統一応募用紙」を使用します。

人権を考える町民の集い

7月29日、千寿苑で「人権を考える町民の集い」が開催され、ノンフィクションライターの角岡伸彦さんが講演しました。

角岡さんは、「部落差別はさまざまな取り組みの成果で無くなってきていますが、まだ残っています。私が部落問題を考えるのは、かけがえのない自分自身が生きやすい社会を作りたいからです。みんなが生きやすい社会を作るために、身近な集団の中で、それぞれが大事にしているかけがえのないものや、その対極にあるものを話し合っていくことが大事です。他者との関係づくりに努めることが、差別の解消につながります」などと話しました。

また、日本での食肉の歴史的経緯を紹介しながら、講演の途中に角岡さん自らがホルモンを参加者に振る舞いました。



講演する角岡伸彦さん

季節のうた

▼馬見原酔山会

雷や逃げ惑ふ犬吠ゆる犬
祭果て眠りむさぼる幼かな
打水に刹那の風の生れけり

長谷野澄博
高田ゆかり
赤崎志朗

▼やまなみの会

降り続く雨にしっとり濡れて咲く紫陽花の藍ひとし
お青く
買物に背戸裏行けば匂いくる魚のこげぞ人ごとなら

荒木由紀子
山下弘子
田代エミ

▼通潤句会

束にしてじゃがいもの花香ぐわしき
山裳をなぞり見下ろす深谷間白き炊煙ゆらり人呼び

広津真知子
平川竜

▼清和短歌会

暑中見舞の葉書を持ってど身の燃えて安静大事と書く
手を止めぬ
月出でて昼の火照りも静もりて夕べの心の和むひと

藤島みつ
米田定

10月の当番医

- 10月3日 蘇陽病院 (電話83-1122)
- 10月10日 高田整形外科 (電話72-1007)
- 10月17日 坂本クリニック (電話72-0210)
- 10月24日 伴病院 (電話72-0029)
- 10月31日 野田医院 (電話72-0307)

山都町の人

(平成22年8月31日現在)

男	8,821人 (-11)
女	9,417人 (-26)
計	18,238人 (-37)
世帯	6,792戸 (-4)

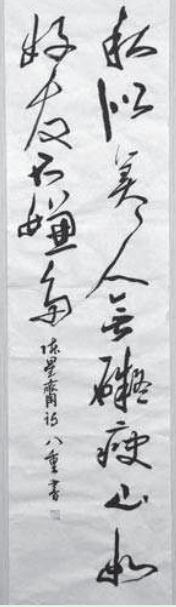
※ () は前月比
 ※最高齢は105歳〔女性1人〕
 ※1月1日～8月31日の出生届数
 66人〔うち8月は6人〕
 ※1月1日～8月31日の死亡届数
 206人〔うち8月は26人〕

矢部小で夏休み特別教室



矢部小学校では、地域との連携を図るために今年はじめに夏休み特別教室を開催しました。8月4日に行われた特別教室には地域のボランティアの方と矢部高校生15名が講師として訪れ、参加した5・6年生11名の夏休みの課題と一緒に取り組めました。高校生は、質問を受けながら、優しく丁寧に勉強を教えていました。

書道



和光教室書道部の佐野八重子さん(川口)作

編集後記

今号の取材で、3つの花火大会を見ることができました。火伏地蔵祭と八朔祭、それともう一つは田小野夏祭りでの花火大会です。地元の方々は「日本一小さい花火大会」とおっしゃっていましたが、とんでもない。大きな歓声上がる立派な花火大会でした。

今月、2通のお葉書をいただきました。県外にお住まいの山都町出身の方で、広報やまをご覧になつてのこと。お二人にとつて広報誌はご自分と山都町を繋ぐ大事なものと気持ちが引き締まりました。お葉書ありがとうございます。(F)